



# どさんこうりゆう便り

北海道支部報  
2013年度 秋号 No. 35  
2013年11月23日  
発行：育英友の会北海道支部  
印刷：育英友の会北海道支部  
発行責任者：田中 知朗  
編集責任者：加瀬 汐美

## ✿地域交流集会のご報告✿

今年度の交流集会は「Change～次に向かって～」をスローガンに掲げ、国立日高青少年自然の家にて実施しました。参加者は、総勢41名（含むスタッフ8名）で、留学生9名、日本人学生24名でした。

交流集会初日は、参加者が集合時間に遅れることなく集合したものの、やや不安そうな面持ちの参加者は、バスに乗って直ぐに始まったバスレクで、直ぐに皆と打ち解けることができました。到着後のレクリエーションでは、色々なゲーム等で更に打ち解け、班活動実施後には、野外炊飯場に移動。今回のメニューは、ビーフカレー、野菜カレーそしてアイヌ料理（チェプオハウ）でした。参加した学生の中には、包丁捌きがぎこちない人もいましたが、何とか全ての料理を作ることができました。特にカレーライスはその水分量に気をつけていたものの、結果的に粘り気のないルーとなりましたが、仲間と一緒に料理した楽しさがその様な失敗を吹き飛ばしてくれました。

2日目の午前中は、4つのテーマに分かれて「テーマトーク」を実施しました。テーマトークでは色々な発言が飛び出し、有意義なディスカッションとなりました。そして午後からの「アクティビティ」では、雨天の

ため野外散策を中止し、全員で屋内スポーツ（ソフトバレーとドッジボール）を実施しました。



ソフトバレーは、班対抗で行いしましたが、上手下手に関係なくとても素晴らしいチームワークで楽しい試合を実施することができました。ちなみに、アクティビティ終了後に提供した「アイスクリーム」を大きな笑顔で頬張る姿

がとても可愛らしかったです。夕食後は、恒例のCF（セレモニアルフアイヤー）です。雨天のため屋内でのキャンドルフアイヤーに変更しましたが、火の精たちの点火セレモニーの後に実施したレクや班単位の出し物では大いに盛り上がり、更に「予備」として計画していたスタンツという各国の文化等の紹介を実施しました。その中でも、支部長の「ムックリ」の演奏に全員が聴き入ったのがとても印象的でした。最終日は、開催委員長作成のライドショー紹介や各班の代表からの感想を聞き、あっという間に今年度の交流集会が終了しました。

以下に支部独自で行ったアンケート結果を紹介します。

この結果を見ていただくとお分かりになると思いますが、参加者から好評を得ることが出来たのは、皆様のご支援と、約4ヶ月間準備をして頂いたスタッフの皆様のお陰です。この場を借りて、お礼申し上げます。本当に、ありがとうございました！



## ❖地域交流集会のエピソード❖

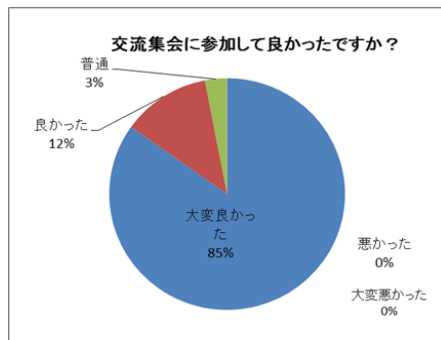
2日目のセレモニアルファイヤーの際には、その年のスローガンに沿って各班が趣向を凝らした発表をするというのが、毎年交流集会の恒例です。各班が限られた時間の中で団結して話し合いを進め、練習をして一つのものを作り上げて本番に臨む中、私が担当した4班だけは他班とは少し違っていました。それぞれのメンバーが自由奔放に発言をし、その破天荒なアイディアと図々しさにより、話し合いが全くまとまらないまま時間だけが過ぎていきました。その結果、練習が全く必要ない「だるまさんが転んだ」をしている最中にチェンジ!!!と叫びつつ何枚も重ね着した服を脱いでいく」という何とも下らない発表をするに至りました。発表前は4班一同不安でしたが、見てくださった皆さんが予想以上に笑って頂けたことを思うと、「もうこの際スローガン自体をチェンジしてしまえばいいのでは？」等というアイディアが飛び出した話し合いも不毛ではなかったのだな、と思うことができました。これからも4班だけではなく、交流集会を通して出会えた仲間たちとの絆を大切にしていこうと思います。



## ❖交流集会参加学生からの感想❖

北海道武蔵女子短期大学英文学科 高畑 有希

私が今回参加したのは、来月からカナダへ留学をするので、文化の違いを聞きたいと思ったからです。実際に参加してみて、私は特にマレーシアから来た留学生と仲良くなりました。私は、彼女と出会うまでマレーシアのことやイスラム教のことをよく知りませんでした。ですが、イスラム教はお祈りをされた肉は食べることができ、日本にいる時はネットで購入していることや髪の毛を隠すスカーフを人によってはしない人が



いることを教えてもらいました。更に以前中国の食文化について調べた時に「中国人はご飯を残すことが料理を作ってくれた人に対して、感謝の気持ちを表す」ということを知ったので中国人の留学生にそのことを伝えると、「中国は広いので様々な文化が存在する。そのため、料理を残す人もいればきちんと全部食べる人もいます」と言われました。今回参加して感じたことは、パソコンや携帯電話がいくら普及しても実際に話を聴くことには敵わないということでした。世界には様々な文化が存在していて私が知らないことは知っていることよりも多いです。今回は日本語での会話でしたが、英語を話せるようになると多くの国籍の人と話せるようになるのでこれからも英語の勉強を頑張り、文化の違いを学びたいと思います。

#### 北海道大学大学院国際広報メディア観光学院 張麗

今回活動の主題は『CHANGE』であり、それについて様々な室内活動（例えば、野外炊飯活動、テーマトーク、セレモニアルファイヤー等）がアレンジされ、充実した三日間を過ごさせていただきました。その中で、特に印象深いのは『テーマトーク』です。

我々は普段勉強に追われ、「自分とは何か?」といった人生や自分に関する質問を考える時間がないので、私のような時間の流れに身を任せる学生は多いでしょう。今回のテーマトークではこういったようなテーマが挙げられ、日本人大学生と留学生はお互いに自分の考えを皆に分ち合い、今まで気付いていなかった自分を見直すこともできたし、異国の学生の相互理解を高めることもできました。

その意味では、以前の精神状態から一段高いレベルの精神状態へのchangeと言えるのではないのでしょうか。三日間は短いですが、日高青少

年自然の家で世界の青少年が作った信頼関係、友情の絆はきっと世界という舞台上で末永く輝いていくと思います。



#### ❖再会の集い❖

北海道地区の再会の集いは、9月21日（土）に昼の部(17名)と夜の部(20名)の2部構成で実施しました！特に2013年の夏は雨が多かったにも関わらず、今年度も「晴れ男+腫れ男=好天」という凶式が見事に的中(\*^^\*)！雨の心配は全くいらない中で、昼の部(BBQ)を前田森林公園でスタートしました。中でも「北海道支部名物」の大佐特製の燻製には、皆の箸が止まらない状態。久しぶりに再会した皆の笑顔が溢れる素敵な時間でした。

今回は大佐特製の燻製を作るために、朝早くからお手伝いに来ていただいた方もいました。彼らの働き振りを見て、次回はその人たちが作った燻製も食べてみたいなーなんて思いました（笑）

夜の部では、美味しいお酒やお鍋と共に近況を語り合う時間が貴重だと実感しました。特に交流集会の参加者の友人達も多く参加してくれたので、交流集会とは違う形で新たな出会いもありました！今度は、ぜひクリスマス会





### ❖北海道支部役員❖

支部長 田中知朗  
支部理事 加瀬汐美  
事業部長 鈴木優介  
広報部長 加瀬汐美  
支部監事 西森 集

### ❖支部宛メール・WEBページ❖

<http://www.ikueitomonokai.jp/hokkaido/>  
[hokkaido@ikueitomonokai.jp](mailto:hokkaido@ikueitomonokai.jp)



### ❖今後の予定❖

今後の予定としては、12月7日（土）にクリスマスパーティーを開催します！今年度はまず大通りのミュンヘン・クリスマス市へ行き、温かい飲み物や美味しい食べ物を食べながら、イルミネーションを見ます。その後は、会場へ移動し、飲み会を行う予定です。交流集會に参加できなかった方でも参加可能ですので、多くの友人を誘って、気軽に来て下さい！スタッフ一同、心からお待ちしています(^^)

### ❖運営委員募集中❖

育英友の会北海道支部では、友の会活動に積極的に協力していただける方を募集しています。男女年齢等は一切問いませんので、友の会活動にご理解があり、情熱とやる気を持っている方ならどなたでも歓迎します。

すでに、交流集會参加学生の数名から意思を確認しています。また、まずはどんな活動をしているのか知りたいという方も、月に一度の運営委員会へぜひお越しいただきたいです。

ご希望の方は、左側の連絡先までご連絡下さい！

### ❖編集後記❖

この度北海道支部では支部報をリニューアルしました！読んでくださる皆さんに堅苦しくなく、支部の活動を理解してもらえるように工夫を試みました。私は支部報の作成が2度目なのですが、最初よりもだいぶスムーズにできました！また、支部報の作成を通して、wordの技術がほんの少しだけ向上したような気がしています（笑）そして、いつも力を貸して下さいる田中さん、お父さん本当にありがとうございます。では皆さん、今後とも北海道支部を大いに盛り上げていきましょう！！よろしくお祈いします。（担当 加瀬汐美）